

「福島、その先の環境へ。」対話フォーラム（2021.5.23）

□小泉環境大臣 ご発言（1時間53分～）

『県外最終処分というものを、まるで、福島でいま、中間貯蔵で保管をされているものを、そのまま県外でという風に考えているわけではなくて、**いかにして、その運び出す量を減らしてゆけるのか。**

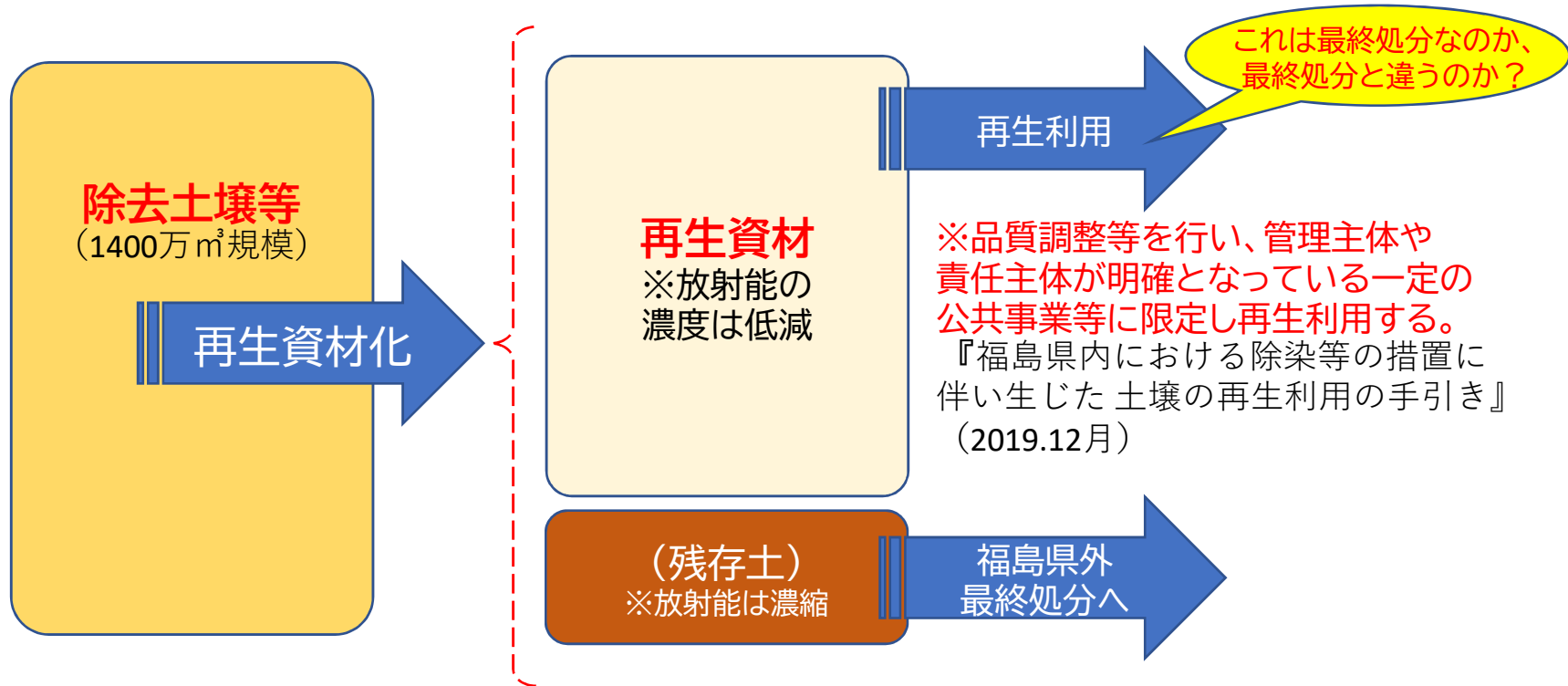
（一部略）大熊町出身の次世代の方の想いは、福島から最終処分で持ち出すことによって、その持ってゆく行く先の方にも苦しい想いをしてほしくないという、この想いを持っているということなのですよ。

その想いを形にするために最大のカギになるのが、減らすという技術、減容化ということをしつかりする。再生利用できるところは再生利用をすることによって、運び出すその除去土壌などの量を極力減らしてゆく、ということなのです。

福島ของ皆さんは、そういったことも考えながら、いま飯舘村は除去土壌を実証することで、なんとか安全性も内外の皆さんに知って頂こうと思いつながらやっています。いま、農業現場でやっている食用作物の基準値も、一般食品の基準値を大きく下回る結果が出ています。

そうしたことを私は全国の方々に知って頂きたい。なんとか再生利用に関する理解が広がるように、今日を皮切りにしっかりと活動を強めてゆきたいと思っています。』

(中間貯蔵施設の稼働から)30年以内の福島県外での最終処分と 除去土壌などの再生利用に関する概要



○「中間貯蔵施設から運び出す総量を減らしたい」という思惑
その最大のカギになるのが減容化

- ただし除去土壌等の【総重量】と【放射性物質の総量】は不変。
⇒最終処分の必要性をなくす手続きとしての再生資材化が構想されていないか…
⇔最終処分に必要な除去土壌の総量を制度的に<減容化>する省令改正が、進む？
⇔そもそも30年以内に福島県外での最終処分をすることの『定義』は？

省令・ガイドライン等の
改正などに要注意！

Amenity(アメニティ)

The right thing in the right place.

然るべきものが、然るべきところにあること

(**Holford**卿)